

令和元年度

(平成31年4月1日より令和2年3月31日まで)

事業報告

公益財団法人 高松宮妃癌研究基金

東京都港区高輪一丁目14番15号102

目次

第1章 概況	1
第2章 事業の状況	
1. 研究助成金の贈呈	1
2. 高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈	1
3-1. 高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの開催	2
3-2. 国際シンポジウム開催の助成	2
4. 国際講演会の開催	3
5. AACR 高松宮妃記念講演会開催の助成	3
6. 機関誌「CANCER」の発刊	4
第3章 管理事項	
1. 会議等に関する事項	
(1) 令和元年度第1回理事会 (通常)	5
(2) 令和元年度第1回評議員会 (定時)	5
(3) 令和元年度第2回理事会 (臨時)	5
(4) 令和元年度第1回学術委員会	5
(5) 令和元年度第3回理事会 (臨時)	6
(6) 令和元年度第4回理事会 (通常)	7
(7) 令和元年度第2回評議員会 (臨時)	7
2. 内閣府公益認定等委員会への報告、申請等に関する事項	8
3. 内閣府からの連絡事項等	8
第4章 寄附に関する事項	9
第5章 附属明細書	
表1 令和元年度研究助成金受領者名簿	10
表2 令和元年度高松宮妃癌研究基金学術賞受賞者名簿	13

第1章 概況

当事業年度は、設立後50年を経た当財団にとって、令和に改元後初めての新たな気持ちで迎えた年度である。がん撲滅のための公益目的事業の維持、増進を図るべく、設立以来実施してきた事業を着実に遂行するとともに、引き続き財団運営の管理、運営面の改善を図った。公益目的事業については全て計画通りに実施した。ただ、国際講演会の開催については、講演者の都合により実施が延期となっていた平成30年度の講演会と当年度の講演会を合わせ2件の開催とした。

「五十年のあゆみ」（設立50年史）については、当年度に発行を完了し、寄附者、協力者、がん研究者、がん連携拠点病院等に配布した。

これらの事業に関する当事業年度の収支は、主要な収入である株式配当及び寄附金共に前事業年度比で下回った上、債券利息収入も前事業年度比で14.1%の減少となったことから、過去に計上済の公益事業資金を取り崩し、当事業年度の経常収益総額は、240,086千円（前年度は234,072千円）となった。

経常費用については、当事業年度の研究助成金の採択件数を前事業年度の34件から過去最大の40件に増加させて事業拡大を図ったことによる費用増加の他、国際講演会2件の実施による費用増加や「五十年のあゆみ」発行費用の発生があった。しかし、国際シンポジウムの助成選別による事業費の削減及び新型コロナウイルス感染拡大による米国でのAACR高松宮妃記念講演会の実施延期のための費用繰り延べ等により、経常費用総額は、230,849千円（前年度は211,673千円）となった。

以上の結果、当事業年度の一般正味財産の当期経常増減額は、9,237千円の黒字（前年度22,399千円の黒字）となった。

第2章 事業の状況

1. 研究助成金の贈呈（定款第4条第1項第1号）（公益目的事業1）

当事業年度の応募件数は186件であり、この中から40件が採択された。受領者の氏名、研究題目等は、第5章・附属明細書・表1に記載のとおりである。

選考は令和元年12月4日（水）開催の学術委員会において行なわれ、12月17日（火）、理事会の承認を得た。

贈呈式は、令和2年2月21日（金）、総裁常陸宮殿下ご臨席の下、パレスホテル東京（東京都千代田区）において挙行了した。

2. 高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈（定款第4条第1項第2号）（公益目的事業2）

当事業年度の推薦件数は9件9名であり、この中から2件2名が選考された。受賞者の氏名、研究業績等は、第5章・附属明細書・表2に記載のとおりである。

学術委員会における受賞者の選考、理事会の承認及び贈呈式は、上記1.の研究助成金の贈呈と併せて行われた。

3-1. 高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの開催

(定款第4条第1項第3号、第4号) (公益目的事業3)

第50回記念高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムを次のとおり開催した。

(1) シンポジウム

主 題： がん研究とその成果が導く最適医療の新展開
会 期： 令和元年11月12日(火)～14日(木)
会 場： パレスホテル東京(東京都千代田区)
組織委員長： 間野 博行 博士 国立がん研究センター研究所所長
組織委員： Dr. Elaine R. Mardis 米国・全国小児病院ゲノム医学研究所
共同所長
上田 龍三 博士 愛知医科大学教授
今井 浩三 博士 北海道大学遺伝子病制御研究所客員教授
元札幌医科大学学長
大島 正伸 博士 金沢大学がん進展制御研究所教授
招待演者： 海外20名 (米国16名 イタリア1名 スイス1名 ベルギー1名
カナダ1名)
国内10名
討 論 者： 約200名

(2) 中原記念講演賞

本シンポジウムの特別セッションにおいて、第16回中原記念講演が行なわれた。
講演終了後、講演者に対し、記念の盾と副賞50万円(目録)が贈呈された。

講 演 者： 宮園 浩平 博士
東京大学大学院教授
演 題： TGF- β ファミリーシグナルのがん進展における役割

(3) 記録集の発刊

本シンポジウムの記録集を次のとおり発行した。

書 名： “Extended Abstracts for the 50th Commemorative International
Symposium of the Princess Takamatsu Cancer Research Fund,
2019”
発 行 月： 令和2年3月
発 行 部 数： 530部

3-2. 国際シンポジウム開催の助成

(定款第4条第1項第3号、第4号) (公益目的事業3)

下記の学会が実施した国際シンポジウムに対し助成を行った。

第78回日本癌学会 学術総会における JCA-AACR Joint Symposia
会 期： 令和元年9月26日(木)～28日(土)
会 場： 国立京都国際会館
助成額： 5百万円

4. 国際講演会の開催（定款第4条第1項第3号、第4号）（公益目的事業4）

平成30年度から延期となっていた第38回国際講演会を次のとおり開催した。第1回講演会に先立ち表彰式が執り行われ、関谷理事長より講演者に対し、盾が授与された。

講演者：Dr. Lewis C. Cantley
米国・コーネル大学医学部
サンドラ・エドワード・メイヤーがんセンター所長
演題：PI3キナーゼとヒト疾患
受入責任者：慶應義塾大学 佐谷 秀行 博士
開催地及び：東京／慶應義塾大学 佐谷 秀行 博士
開催責任者 広島／広島大学 安井 弥 博士
京都／京都府立医科大学 酒井 敏行 博士
日程：令和元年5月14日 第1回講演会（慶應義塾大学）
令和元年5月17日 第2回講演会（広島大学）
令和元年5月20日 第3回講演会（京都府立医科大学）

引き続き、当事業年度の第39回国際講演会を次のとおり開催した。第1回講演会に先立ち表彰式が執り行われ、山中常務理事より講演者に対し、盾が授与された。

講演者：Dr. Elaine Fuchs
米国・ロックフェラー大学
哺乳類細胞発生生物学研究室教授
演題：皮膚の幹細胞：ストレス、炎症、がん化への関与（東京）
皮膚の幹細胞—健康維持における役割（札幌）
幹細胞—静止期、増殖期、がんにおける動態—（京都）
受入責任者：国立がん研究センター研究所 岡本 康司 博士
開催地及び：東京／国立がん研究センター研究所 岡本 康司 博士
開催責任者 札幌／北海道大学 藤田 恭之 博士
京都／京都大学 山中 伸弥 博士
日程：令和元年5月24日 第1回講演会（国立がん研究センター）
令和元年5月29日 第2回講演会（北海道大学）
令和元年6月3日 第3回講演会（京都大学）

5. AACR 高松宮妃記念講演会開催の助成

（定款第4条第1項第3号、第4号）（公益目的事業5）

米国癌学会（AACR）の2019年度総会において、第13回AACR高松宮妃記念講演が行われた。講演者の選定は、日本側から牛島俊和博士（国立がん研究センター研究所エピゲノム解析分野分野長）が参加する選考委員会において行われ、同総会には、当財団を代表して関谷剛男理事長が参加した。

講演者：Dr. Charles L. Sawyers
米国 メモリアル・スローン・ケタリングがんセンター プログラム長
演題：がんにおける分化系統の柔軟性

講演日：平成31年4月1日（月）

会場：米国・アトランタ ジョージアワールドコンgresセンター

講演に先立ち、関谷剛男理事長から故高松宮妃殿下の世界のがん研究に対する長年にわたるご支援並びに当財団の沿革・事業内容等について説明があり、Dr. Sawyers に対し記念の盾及び副賞1万ドルを贈呈した。

6. 機関誌「CANCER」の発刊（定款第4条第1項第5号）

令和元年度（第50巻）機関誌CANCERを次のとおり発刊した。

発行日：令和元年7月26日（金）

発行部数：700部

第3章 管理事項

1. 会議等に関する事項

(1) 令和元年度第1回理事会（通常）

開催日：令和元年6月4日（火）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：理事10名（総数10名）・監事2名（総数2名）

議案：① 平成30年度事業報告及び決算について

② 令和元年度第1回評議員会（定時）の開催について

審議結果：提案された2件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

報告事項：理事長及び常務理事より、定款第33条第4項に基づき、職務執行状況につき報告が行われた。

(2) 令和元年度第1回評議員会（定時）

開催日：令和元年6月19日（水）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：評議員10名（総数14名）

理事長、常務理事

報告事項：理事長及び常務理事より、平成30年度事業報告及び決算について報告が行われた。

(3) 令和元年度第2回理事会（臨時）

開催日：令和元年11月29日（金）

開催場所：ホテルグランドパレス（東京都千代田区飯田橋1-1-1）

出席者：理事10名（総数10名）・監事2名（総数2名）

議案：① 令和2年度の主要事業について

② 令和元年度第2回評議員会（臨時）の開催について

審議結果：提案された2件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

(4) 令和元年度第1回学術委員会

開催日：令和元年12月4日（水）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：学術委員 10 名（総数 10 名）

理事長、常務理事

議案：① 令和元年度研究助成金受領候補者の審査、選考について

② 令和元年度学術賞候補者の審査、選考について

③ 令和2年度（第40回）国際講演会の実施について

④ 令和2年度（第17回）中原記念講演賞受賞者の選考について

⑤ 令和3年度（第52回）高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの主題、組織委員長の審査、選考について

審議結果：① 186名の申請者の内、第5章・附属明細書・表1に記載の40名が選考された。

② 9件9名の候補者の内、第5章・附属明細書・表2に記載の2名が選考された。

③ 令和2年度国際講演会の実施について、下記の3名を候補者とすることに決定した。講演会開催場所及び時期については、講演者との調整によることとした。

第1候補

Dr. Garry P. Nolan

スタンフォード大学 微生物学・免疫学分野教授（アメリカ）

第2候補

Dr. Aviv Regev

マサチューセッツ工科大学 生物学分野教授（アメリカ）

Dr. Laurence Zitvogel

パリ・サクレ大学ギュスターヴ・ルーシーがん研究所

免疫腫瘍学部門教授（フランス）

④第51回国際シンポジウムの組織委員会から推薦のあった Arthur P. Grollman 博士（ストーニーブルック大学薬理学部特別教授）が受賞者に選考された。

⑤学術委員の提案、審議により、主題を「難治性がんに対する最先端医療－進歩と安全倫理－」とし、組織委員長候補として、佐谷秀行博士（慶應義塾大学医学部附属先端医科学研究所教授）が選考された。

(5) 令和元年度第3回理事会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：令和元年度学術委員会決定事項の承認について

① 令和元年度研究助成金受領者の決定について

② 令和元年度学術賞受賞者の決定について

- ③ 令和2年度（第40回）国際講演会の実施について
- ④ 令和2年度（第17回）中原記念講演賞受賞者の決定について
- ⑤ 令和3年度（第52回）高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの
主題および組織委員長の決定について

（令和元年 12月 11日（水）提案書発送）

提案結果：理事が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、同提案につき、書面により、理事10名全員から同意の意思表示を、また監事2名全員から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第46条第2項の規定に基づき、理事会決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：令和元年12月17日（火）

(6) 令和元年度第4回理事会（通常）

開催方法：決議の省略の方法

- 提案事項：① 令和元年度収支予算の変更について
- ② 令和2年度事業計画書（案）
 - ③ 令和2年度収支予算（案）について
 - ④ 令和2年度資金調達及び設備投資の見込み（案）について
 - ⑤ 次期学術委員の選任について
 - ⑥ 顧問の選任について

（令和2年 3月 11日（水）提案書発送）

提案結果：理事が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、同提案につき、書面により、理事10名全員から同意の意思表示を、また監事2名全員から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第46条第2項の規定に基づき、理事会決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：令和2年3月17日（火）

(7) 令和元年度第2回評議員会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

- 提案事項：① 令和元年度収支予算の変更について
- ② 令和2年度事業計画書（案）
 - ③ 令和2年度収支予算（案）について
 - ④ 令和2年度資金調達及び設備投資の見込み（案）について

（令和2年 3月 17日（火）提案書発送）

提案結果：理事が、評議員会の目的である上記事項について提案し、同提案につき、書面により評議員14名全員から同意の意思表示を得たので、

定款第 27 条の規定に基づき、評議員会決議があったものとみなされた。

評議員会の決議があったものとみなされた日：令和 2 年 3 月 26 日（木）

2. 内閣府公益認定等委員会への報告、申請等に関する事項

- | | |
|----------------------|--------------------|
| (1) 平成 30 年度事業報告等の提出 | 令和元年 6 月 26 日（水） |
| (2) 令和 2 年度事業計画書等の提出 | 令和 2 年 3 月 27 日（金） |

3. 内閣府からの連絡事項等

内閣府から公益法人宛には、不定期にメールにより情報連絡が行われる他、原則隔週水曜日に「内閣府 公益法人メールマガジン」が発行され、公益認定等委員会からの伝達事項、公益法人への依頼事項、公益法人の現況と運営へのアドバイス、テーマ別セミナーや相談会のお知らせ等が記載されている。

この情報連絡に関し、令和元年度に対応した主な事項は次の通りである。

令和元年 8 月 28 日（水） テーマ別セミナーへの参加
テーマ「公益法人の会計等に関する最近のトピック」
「行政庁による監督と法人運営上の留意事項」

第4章 寄附に関する事項

当事業年度に受け入れた寄附金は次のとおりであり、定款第4条に定める公益目的事業の費用に充当している。

・法人	50件	20,769,433円
・個人	71件	14,280,038円
・法人個人合計	121件	35,049,471円

第5章 附属明細書

表1 令和元年度研究助成金受領者名簿

以下の受領者に対し、1件当たり200万円の助成金を贈呈した。

代表研究者氏名	所属・職	研究題目
石井 秀始	大阪大学大学院医学系研究科 疾患データサイエンス学 特任教授	マルチモダリティー1分子イメージング による上皮性がん幹細胞の可視化と創薬基 盤の構築
上野 英樹	京都大学大学院 医学研究科免疫細胞生物学 教授	乳がん微小環境におけるPD-1hi CD4+ T 細胞のシングルセルレベル解析
上原 亮太	北海道大学 先端生命科学研究院 准教授	倍数性逆転による細胞ガン化メカニズムの 解明
大澤 毅	東京大学 先端科学技術研究センター ニュートリオミクス腫瘍学分野 特任准教授	腫瘍微小環境におけるアミノ酸代謝適応機 構の解明と治療法の開発
大橋 真也	京都大学大学院 医学研究科腫瘍薬物治療学 助教	アセトアルデヒドによる食道扁平上皮発がん 機序の解明
荻原 秀明	国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野 ユニット長	クロマチン制御因子欠損型小児性若年性が んにおける合成致死治療法の開発
折茂 彰	順天堂大学 医学部病理腫瘍学 准教授	トラスツズマブ治療抵抗性乳癌における癌 内線維芽細胞の役割
金子 修三	国立がん研究センター研究所 がん分子修飾制御学分野 ユニット長	多層的ゲノム・エピゲノム解析に基づいた 次世代型精密がん医療予測モデルの確立
菊繁 吉謙	九州大学大学院 医学研究院応用病態修復学 講師	アミノ酸代謝経路によるがん幹細胞制御機 構の解明と治療応用
菊池 次郎	自治医科大学 分子病態治療研究センター 幹細胞制御研究部 准教授	多発性骨髄腫細胞同士の相互作用による薬 剤耐性獲得機構の解明
昆 彩奈	京都大学大学院 医学研究科腫瘍生物学講座 助教	染色体高次構造を介した遺伝子の発現・転 写後調節の破綻に起因する骨髄異形成症候 群の分子病態の解明
近藤 豊	名古屋大学大学院 医学系研究科腫瘍生物学 教授	膵臓がん細胞のDNA複製ストレスを調整す る長鎖非翻訳RNAの機能解明とその標的化
齋藤 大介	九州大学大学院 理学研究科生物学部門 教授	胚細胞腫瘍の発症機構の解明

代表研究者氏名	所属・職	研究題目
斉藤 典子	がん研究会がん研究所 がん生物部 部長	核内ノンコーディングRNAの液-液相分離による乳がん細胞の遺伝子発現制御
坂田(柳元) 麻実子	筑波大学 医学医療系血液内科 准教授	T細胞リンパ腫の微小環境を構成する細胞群の起源と腫瘍細胞支持機構の解明
佐久間 圭一朗	愛知県がんセンター研究所 がん病態生理学分野 ユニット長	上皮間葉転換に伴い発現するCTNND1異常アイソフォームを標的とする大腸がん転移抑制薬の開発
櫻井 雅之	東京理科大学 生命医科学研究所 分子病態学研究学部門 講師	内在性塩基編集による細胞がん化制御機構の解明とその応用による早期診断・修復法の開発
佐藤 和秀	名古屋大学高等研究院 医学系研究科 病態内科呼吸器内科 S-YLC 特任助教	腫瘍免疫逃避機構をターゲットとした光がん免疫療法の開発
佐藤 礼子	東京薬科大学 生命科学部 講師	抗がん剤耐性メカニズムの解明と新規治療標的の同定
白石 航也	国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野 ユニット長	ゲノム解析に基づく宿主並びに腫瘍における免疫応答ネットワーク機構の解明
田口 歩	愛知県がんセンター研究所 分子診断トランスレーショナルリサーチ分野 分野長	PDXモデルを用いた高深度プロテオミクスによる革新的膵癌免疫療法の開発
田中 知明	千葉大学大学院医学研究院 分子病態解析学 教授	がん幹細胞特性制御に関わるp53依存的長鎖非コードRNAの同定と創薬への応用
田中 正光	秋田大学大学院 医学系研究科分子生化学講座 教授	がんの進展を加速する間質細胞ネットワークの情報伝達機構
千葉 奈津子	東北大学加齢医学研究所 腫瘍生物学分野 教授	がんのゲノム不安定性を標的とした新しいがん治療法の開発
塚原 智英	札幌医科大学 医学部・病理学第一講座 准教授	ゲノム編集免疫記憶幹細胞を用いた肉腫の養子免疫療法開発
豊國 伸哉	名古屋大学大学院 医学系研究科生体反応病理学 教授	発がん過程におけるフェロトーシスの意義の追究
中嶋 悠一朗	東北大学 学際科学フロンティア研究所 新領域創成研究部 助教	腫瘍が誘導する全身性応答を制御する宿主側因子の同定と機能の解明

代表研究者氏名	所 属 ・ 職	研 究 題 目
中原 史雄	東京大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科 講師	白血病に対する強力化学療法・骨髄移植後の骨髄生着を早期に得るための再賦活化骨髄間葉系幹細胞(revitalized MSC)を用いた人口骨髄の開発
野村 幸世	東京大学大学院 医学系研究科消化管外科 准教授	ラット逆流性食道炎モデルを用いたバレット食道のMEKインヒビターによる可逆性の検討
服部 鮎奈	国立がん研究センター研究所 研究員	翻訳後修飾によるがん幹細胞の自己複製と分化の制御機構
深田 俊幸	徳島文理大学 薬学部薬学科 病態分子薬理学研究室 教授	がん悪液質における生体微量金属の役割解明と創薬研究
藤田 雄	東京慈恵会医科大学 内科学講座呼吸器内科 助教	免疫チェックポイント阻害剤における新規コンパニオン診断薬の開発
松本 佳則	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学 助教	癌転移を制御するメカニズムの解明と新規治療法の開発
三浦 進司	静岡県立大学 食品栄養科学部 教授	がん悪液質による進行性の骨格筋減少を抑制する化合物の探索と評価
谷内田 真一	大阪大学大学院 医学系研究科医学専攻 ゲノム生物学講座 教授	腸内微生物が大腸癌発症に及ぼす影響に関する研究
山口 英樹	佐々木研究所附属佐々木研究所 腫瘍細胞研究部 部長	マルチカラー蛍光イメージングによるスキルス胃癌腹膜播種機構の解析
山田 武司	愛媛県立医療技術大学 保健科学部臨床検査学科 教授	細胞内エネルギー代謝調節による効果的なT細胞免疫療法の開発
山道 信毅	東京大学医学部附属病院 予防医学センター センター長 (准教授)	エピゲノム解析・網羅的遺伝子発現解析に基づく自己免疫性胃炎の発癌ポテンシャルの解明
横山 顕礼	京都大学医学部附属病院 腫瘍内科 特定助教	食道がんの起源
吉村 昭彦	慶應義塾大学 医学部免疫微生物学教室 教授	細胞傷害性T細胞の疲弊化メカニズム解明とその解除による新規抗腫瘍免疫療法の開発

(氏名五十音順 敬称略)

表2 令和元年度高松宮妃癌研究基金学術賞受賞者名簿

以下の受賞者に対し、1件当たり500万円の賞金を贈呈した。

氏名	所属・職	研究業績
落谷 孝 広	東京医科大学 医学総合研究所 分子細胞治療研究部門教授	体液中マイクロRNAによるがんの早期診断法の確立とその実用化
高橋 雅 英	名古屋大学大学院 医学系研究科教授 名古屋大学 理事・副総長	がん細胞の浸潤・転移に関わるGirdinファミリー分子の発見と機能に関する研究

(氏名五十音順 敬称略)